

平成17年度岩手県工業技術研究推進会議 議 事 録		(実施日) 平成17年10月20日(木)
(テーマ名) 新方式木質チップボイラーの開発 (事後評価)		
委員	質 問・意 見	回 答
E委員	チップは100%木部チップだと思うが、皮付きのチップは使用可能か？	[発表者] 林業技術センター製の杉の皮付きチップで実験したところ、含水率を100%程度まで下げれば使用可能であった。ただし、付着している土がスクリーに悪さしたり、クリンカの原因となる。
	当面は紙用のチップを利用するのか？	[発表者] 紙用を使用する。
F委員	含水率が大事だと思うが、含水率をチップ製造の段階で調整できないか？100%を超えると、凍結の問題等も出てくることから、含水率はそろえて欲しい。	[発表者] 含水率によりカロリーが左右されるので、乾いたの方が望ましいが、現在のところ、燃料用チップは製造されていない事から、含水率をそろえるのは難しい。燃料チップ供給の仕組みを作っているところである。
	含水率の異なるチップを混合し、含水率を調整してはどうか？	[発表者] 燃料チップとしての需要が予測できるようになれば、一定期間、乾燥のために木材を放置するなどの対策も行えることから、混合については考えなくとも良いと思われる。  [所長] スタート時点で議論し、今回の開発では、燃焼機側で対応することとした。
H委員	[E委員に対して] 杉の黒芯化した物(水分の多い物)はどうしているか？	[E委員] 黒芯化について検討したことがない
	おからのペレット化は可能か？	[発表者] 含水率を調整すれば技術的には可能。用途によっては、費用の面でも可能かもしれない。
	行政サイドの支援はどうなっているか？国でもバイオマスに力を入れていることから、是非、県で支援して欲しい。	[産業振興課] ペレットストーブは知事以下県をあげて支援している。ボイラーについてはこれから。  [所長] 木質バイオマス委員会でも検討している。  [推進監] 林業関係の課で声掛けをして紹介を行うなど県をあげて支援を始めている。
	[所長からE委員に対して] 何かコメントは？	[E委員] チップ業界では燃料チップを製造したい。含水率はチップ業界で調整したい。
	[A委員より] 県の施設へ率先してデモ機を導入し、マーケットを作りあげるといふ考えも必要である。	
	[E委員に対して] チップはどのくらい供給できるか？	[E委員] 70企業が稼働率1/3で20万トン。
A委員	ボイラーの寿命は？	[発表者] 木質燃料は、化石燃料と比べ硫黄などの含有量が少なく、ボイラーの寿命は長いと考えられる。部品交換で10年は保つ。
F委員	木質系のハウスメーカーなどとタイアップしてはどうか？	[発表者] ストーブではハウスメーカーとタイアップしている。ボイラーについては建設メーカーなどのタイアップが有効ではないかと考えている。
B委員	燃焼室の耐火材は？	[発表者] 耐火キャストブルを使用しており、耐熱温度は約1,300 である。
	灰の量は投入量に対して何%か？	[発表者] 灰分は0.3%である。(1kgあたり)